

国内実態調査報告書

テーマ : スポーツツーリズム、自然環境保護、インパクト投資の実践についての沖縄
実態調査
ゼミ名 : 鯉淵 賢 ゼミ
調査日 : 2024 年 11 月 12 日 (火) ~ 11 月 15 日 (金)
調査先 : りゅうぎん総合研究所、(一財) 沖縄美ら島財団・美ら島自然学校、
ケイスリー株式会社
授業科目名 : 演習Ⅳ
参加学生数 : 11 名 (4 年生)

調査の趣旨 (目的)

沖縄本島において「地球環境保護とスポーツツーリズムの実態調査」を実施する。近年の非財務情報の開示義務化の下で、気候変動、地球環境、生物多様性、地域経済社会への基本的理解は、企業情報の開示に携わる担当者にとって必要不可欠なものとなっている。沖縄美ら島財団総合研究所の研究統括から財団・研究所の主な活動について聴き、質疑応答を行う。りゅうぎん総合研究所では沖縄におけるスポーツツーリズム、特にプロ野球春季キャンプの経済効果の計測について質問する。ケイスリー株式会社では、インパクト投資の実践事例について学ぶ。

調査結果

11/12 から 11/15 にかけて、まず、ケイスリー株式会社代表取締役社長幸地正樹氏から、インパクト投資における社会サービス提供会社としての同社の創業と事業展開等について約 1 時間半に渡ってご説明をいただいた後、質疑応答を行った。日本の主に行政部門におけるインパクト投資の実際に関して、当事者からの詳細な知見をご教示いただいた。次に、美ら島自然学校において、美ら島財団総合研究所の統括・上席研究員の野中正法氏から、約 1 時間半に渡って、財団の研究活動の説明を受けながら、主に海洋生物研究と保護、及び海洋文化の研究等についてご教示いただいた。美ら島財団傘下の美ら海水族館においては学校対象のバックヤード見学を実施し、展示の裏側にある業務や様々な海洋生物の保護について学んだ。2 泊目の宿泊は、沖縄県北部に位置する久志地域の民泊に宿泊し、沖縄の方々のご家庭での郷土料理や、砂浜での蟹掘り、沖合に位置する辺野古基地の建設状況などを観察した。さらに、琉球銀行傘下のりゅうぎん総合研究所では研究員の米須唯氏および城間櫻氏から、同研究所から毎年調査レポートとして公表されている、沖縄県プロ野球春季キャンプの経済効果に関するレポートについて、都道府県別の産業連関表データと直接支出額の調査結果を紐付けて、特定のイベントに関する経済効果を算出する手法についての詳細なご教示を受けた。以上の調査先へのインタビュー調査、及び訪問先での実体験を込めて、スポーツツーリズム、自然環境保護、インパクト投資の実践についての有意義な知見を得た。



瀬高の浜